

図書館の

こんなこと知らなかった ③

2003年度英米語学科卒業生 川勝 万規子

私は3月まで、本学図書館で閲覧業務のアルバイトをしていました。私の経験した閲覧の仕事は、貸出・返却カウンターでのコンピュータ処理の他、配架といって返却された本を元の場所に戻したり、古くなった本を修理したり、本棚に並ぶ本を番号順に整理したり…、他にもたくさんありますが、言わば、利用者の方々に快適に図書館をご利用いただくためのお手伝い業務です。私は、実際に仕事を体験するまで、図書館のアルバイトといえば「貸出と返却」というイメージだったので、このように様々な仕事によって館内のより良いサイクルが成り立っていることを知り、驚きました。

毎回、たくさんの本に直接ふれながら過ごしました。そんな中、「こんな面白い本が図書館にあったんだ、今まで知らなくて勿体なかったなあ」と思ったことが何度もありました。例えば、第一閲覧室の奥の本棚に、映画のスク립トコーナーがあるのをご存知でしょうか。これは、海外映画の脚本を、原語・日本語別に表記し、一冊の本としてまとめてあるものなのですが、これが英会話などの学習に大変役立つのです。お家でゆっくり字幕映画のビデオを観ながら、このスク립トとセリフを照らし合わせ、「生きた言語」を楽しく身につけることができます。

本学図書館は蔵書数が大変多いのですが、中でもやはり、語学や異文化関係の本の充実度は圧巻です。学習に楽しみにと、図書館の本をどんどんご活用下さいね。

ご存じですか？

「図書館の 検索端末」



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな生活に向けて期待に胸躍らせていることと思います。図書館では皆さんの学習のサポートをするため、図書資料の提供、各種サービスを行っています。今回は図書資料を探すために不可欠な本学図書館の検索端末についてご紹介します。

約47万冊の蔵書を調べるための蔵書検索専用端末は本館に5台、分館に1台設置されています。様々な言語の図書は勿論のこと、雑誌も検索できますので、簡単な操作でお探しの資料を求めることができます。現在約32万冊分のデータが収録されており、未入力分のデータも日々入力作業を行っています。そして図書館ホームページにも蔵書検索が設けられており、各教室やご自宅から24時間利用することができます。

図書館のホームページには蔵書検索システムと連動した各種データベースを数多く設置しており、皆さんのニーズに合わせた資料検索のサポートツールとなっています。さらに朝日新聞の記事検索ができる「朝日新聞デジタル・ニュース・アーカイブ」、国立国会図書館の蔵書が検索できる「J-BISC」、各種和雑誌の論文検索ができる「マガジンプラス」、各種洋雑誌の論文検索ができる「EBSCOhost」など外部データベースも充実していますので、是非図書館のホームページにアクセスしてみてください。また、新聞雑誌閲覧室で利用できるノートパソコンの貸出も行っています。利用を希望される方は本館レファレンス・カウンターまでお越しください。

図書館の資料やインターネットでの情報を有効に利用することは、大学での学習において大変重要な事です。図書館の各端末を大いに利用していただき、皆さんの学習に役立ててください。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)